

科目名称(Course Title)				担当教員 (Instructor)	
教育学				江上 直樹	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2 単位	1 年次	講義	無	科目等履修 ・ 聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>ひとえに「教育学」といっても、そこには教育哲学・教育史・教育方法学・教育心理学・教育社会学・教育法学・教育行政学・比較教育学等の様々な学問領域が存在する。本講義では、それら教育学の各種領域について入門的な内容を紹介するとともに、現在の教育に関する論点について具体的な事例を取り上げて各テーマについて検討する。</p> <p>教育という営みは、現代社会で生活するうえで誰しもが経験するものであり、教育問題について思索する際に、自身の経験のみをその根拠として議論を行う者も少なくない。しかしながら、その教育問題の背景には、人間個々の問題から法制度等の社会的な背景まで様々な論点が存在する。そこで本講義では、教育学の各種領域についての基礎的な知識を習得することともに、現代的な教育問題について主体的に思索する機会を提供し、教育について多面的な観点から考察を進めることができるようになることをその目的とする。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>①教育学の各種領域について、その概要を簡単に説明することができるようになる。</p> <p>②教育に関する問題について、多面的に問いを立てることができるようになる。</p>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	オリエンテーション (講義の進め方、評価方法)、教育学の各種領域について				
第 2 回	教育の意義と目的				
第 3 回	教育思想① (ソクラテスの産婆術、コメニウスの大教授学、ルソーの子ども観)				
第 4 回	教育思想② (ペスタロッチの開発教授、ヘルバルトの教授法、デュイの児童中心主義)				
第 5 回	教育史① (古代ギリシア～古代ローマ～中世ヨーロッパ～産業革命期の近代公教育へ)				
第 6 回	教育史② (日本の教育史：古代の学校～中世の学校～学制による近代公教育制度の確立)				
第 7 回	教育制度① (教育制度の基本原則、教育における法律主義)				
第 8 回	教育制度② (日本の教育行政組織)				
第 9 回	教育制度③ (教員の養成・採用・研修)				
第 10 回	教育課程① (学習指導要領の変遷)				
第 11 回	教育課程② (学校で身につける能力とは)				
第 12 回	教育方法① (授業の歴史、授業のデザイン)				
第 13 回	教育方法② (教育の評価)				
第 14 回	その他の教育上の論点				
第 15 回	まとめ				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<p>各講義において予習用の資料を配布するので、それを読み次回の授業に備えること。 (講義では予習してきたことを前提として、履修者に発言を求める機会を設ける)</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)		
評価方法	(割合)	評価基準
授業への貢献度 小課題 期末レポート	(30%) (20%) (50%)	<ul style="list-style-type: none"> ●授業への貢献度：出席状況、授業時の発言、グループワーク時の取り組み姿勢、受講態度等を総合的に判断する。 ●小課題：講義の節目ごとに小課題を提示する。小課題については主に提出の有無を重視する。 ●期末レポート：現在の教育問題について、授業で紹介した内容や教育学的背景に基づきながら論点を整理し自身の意見を論じることができるか、といった点を評価のポイントとする。
テキスト (Textbook)		【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・資料等 (Supplementary Reading)		授業時に適宜配布、提示する
備考 (Other Information)		
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)		研究室（4号館4階5研究室）へはいつでも訪問してよいが、席を外している場合も多いので、面談等を希望する場合はメール等（egami-naoki@fukuchiyama.ac.jp）で事前に連絡するのが望ましい。